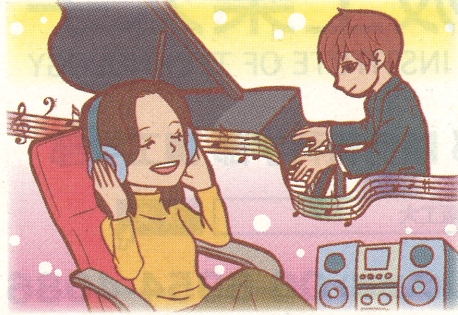


ヒット曲の秘密

いろいろな医学的な話題・興味ある出来事をツラツラと…… Doctor A の雑記帳

森ノ宮医療大学 提供



私は音楽が好きです。洋楽・邦楽を問わず、またあらゆるジャンルの曲を聴きます。クラシックではモーツァルトの才能に驚愕し、ポップスではビートルズの Abbey Road を初めて聴いた時の衝撃はすごかったです。ビートルズも天才だな、確実に。あのオリジナリティ溢れる楽曲の数々は尋常じゃありません。そして、ジャズやロック、歌謡曲、果てはアイドルの曲にだって、これはなかなかの名曲だと感じる楽曲は結構あり、音楽はジャンルを超えて楽しむことができますよね。

楽曲の優劣はメロディー・テンポ・リズムカットのマッチングで決まると思いますが、やはり直接的に重要なものはメロディーラインではないでしょうか。こういう音楽

の魅力を生脳生理学的に研究している方もいらっしゃるって、過去のヒット曲を科学的に解析した本もあり、なかなか楽しく読めます。私がかかり共感したのは「導音」の重要性です。ドレミファソラシド～♪って音階があるとしたらよね。ハ長調ですね。歌ってみてください。で、これをシで止めてみてください。ドレミファソラシ～♪ ううう、気持ち悪い、落ち着かない・・・で、次にド～♪って歌うとホッとしますか？ この場合、シは次のドを期待させる音、すなわち導音、「導音」です。シ～♪で止めることで脳は緊張状態になり、次のドで緊張が緩和されるのです。こういう緊張と緩和の繰り返しが多いとメロディーラインは確かに魅力的に

感じます。「黒鍵の多いピアノ曲は名曲が多い」と言われますが、黒鍵すなわち半音は潜在的に導音となっており、この格言は真実に近いと思われます。一度そういう視点でヒット曲を聴いてみてください。確かに導音が効果的に使われている曲は多いです。

医学の中で、脳の機能というのは非常に難解でまだまだ解明されていません。でも、音楽の魅力も解明できる非常に面白い分野です。それに何より、この分野の発展は、アルツハイマー病やうつ病など、大きな社会的問題でもある疾患の治療法開発にも繋がるでしょう。非常に難しい領域ですが、研究者のみならず、がんばってください！（人まかせかよ・・・）

講師: Doctor A 医師・医学博士。神戸市出身。大阪大学医学部卒。大阪大学医学部付属病院、ハーバード大学研究員、大阪大学老年・腎臓内科学准教授を経て森ノ宮医療大学保健医療学部教授。専攻分野: 循環器学・老年医学・分子生物学・遺伝子治療学。瀬高等学校出身。